
[成果情報名] 「ヘイワード」におけるキウイフルーツかいよう病に対する総合的防除体系

[要約] 「ヘイワード」栽培圃場でキウイフルーツかいよう病が発生した場合、落葉期～新梢伸長期の銅水和剤による防除と発病枝切除を行う総合的防除体系により、本病の発生拡大と枯れ込みを軽減させることができる。

[キーワード] キウイフルーツかいよう病、Psa3系統、薬剤防除体系、耕種的防除、ヘイワード

[担当部署] 病害虫部；病害虫チーム、予察課

[連絡先] 092-924-2938

[対象作目] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

平成 26 年に初発を確認したキウイフルーツかいよう病 biovar3 (Psa3) は重要病害であるが、本県における防除対策は確立されていない。そこで、「ヘイワード」において、薬剤防除と耕種的防除による総合的な防除対策を確立する。

(要望機関名：八女普、JA 八女 (H26))

[成果の内容・特徴]

1. 薬剤防除については、落葉期 (12月)、剪定後 (1～2月)、発芽前 (3月)、新梢伸長期 (4月) に銅水和剤で 4 回実施する (表 1)。
2. 発病枝の切除については、病斑部がある枝の 1 年前に伸長した枝の基部で切除すると切除部からの枯れ込みがないが、病斑のみを切除すると枯れ込みを生じることがある (図 1、表 2)。
3. これらを組み合わせた総合的防除体系を本病が発生した「ヘイワード」圃場で 2 か年のべ 4 圃場で実施した結果、発病葉は観察されない (表 1、表 3、図 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. キウイフルーツかいよう病 Psa3 系統の防除対策マニュアルに掲載する。
2. 本マニュアルに従い、園地の衛生管理、健全な資材の使用、防風対策等の予防管理を行い、切除した発生園の枝は園内で埋設するか、透明なビニルで冬季から秋季まで被覆した後、処分する。
3. 「福岡県病害虫・雑草防除の手引き」に掲載する。
4. 中国系品種に対する本総合的防除体系の防除効果は不明である。
5. 周辺に本病が多発した圃場や発病葉が散見される圃場では、追加防除が必要である。
6. 銅水和剤は薬害を生じやすいので、種類や使用時期を注意する。

[具体的データ]

表 1 キウイフルーツかいよう病に対する総合的防除体系（ハイワード）

防除適期	使用薬剤	発病調査頻度と枝切除
落葉期（12月）	銅水和剤	月2回程度見回り、発病を確認したら枝切除を行う
剪定後（1～2月）	銅水和剤	
発芽前（3月）	銅水和剤	週1回程度見回り、発病を確認したら枝切除を行う
新梢伸長期（4月）	銅水和剤	

注) 1. 園地の衛生管理、健全な資材の使用、防風対策等の予防管理を行う。
 2. 発病葉が散見される場合は、追加防除を実施する。
 3. 銅水和剤は発芽期以降、薬害を生じやすいので、種類や使用時期を注意する。

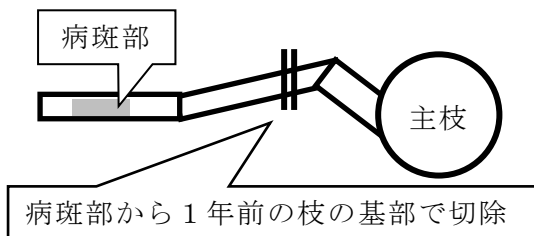


図 1 発病枝の切除法

表 2 病斑枝切除法の違いによる枯れ込みの比較

	処理数	切除部からの枯れ込み数
1年前の枝の基部	4	0
病斑部のみ	4	4

表 3 かいよう病発生「ハイワード」栽培圃場における総合的防除体系の現地実証結果（同一圃場）

薬剤	薬剤散布時期	H27年冬～H28年春		H28年冬～H29年春	
		月・日	薬剤名	月・日	薬剤名
防除体系	落葉前後	12. 29	Ko	12. 24	Ko
	剪定後	2. 18	IC	2. 28	IC
	発芽前	3. 30	IC	3. 24	IC
	新梢伸長期	4. 17	Ko+Cn	4. 13	Ko+Cn
調査結果	調査項目	調査日	調査数	調査日	調査数
	発病枝数（枝切除数）	2～4月	23本	4月	7本
	発病葉数	4～6月	0枚	4～6月	0枚
	試験樹数	42樹		27樹	

注) 1. Koはコサイド3000、Cnはクレフノン、ICはicボルドー66D。登録濃度で散布した。
 2. 一部の発病枝で病斑部のみを切除した結果、枯れ込みを生じた。
 病斑部から1年前の基部で切除した切り口はカルス形成が認められた。

[その他]

研究課題名：キウイフルーツの新系統かいよう病の防除対策の確立

予算区分：経常

研究期間：平成29年度（平成27～29年）

研究担当者：菊原賢次、足立龍弥、成山秀樹